

御前崎町

地形概況

台地は海成砂礫層がのる隆起海食台で、周辺の海岸低地とは急崖で境される。台地面には断層による崖の発達や中西川・新溝川による浅い谷が発達する。海岸の波食台にも断層系がみられる。西部の海岸には砂堆や砂丘がみられる。港湾整備によって人工化が進んだ。

地質概況

相良層群を基盤とする御前崎砂礫台地の上部には、白羽礫層とよばれる円礫をふくむ海成礫層が分布する。台地南側には砂丘が発達し、砂層も厚くなる。岬端部では地殻運動も激しく、隆起と沈降や断層の跡がある。海岸は侵食により相良層群の波食台が形成され、小断層が走っている。

気象概況

年平均気温は 15.9℃と県内でも気温が高く、特に冬に暖かく真冬日がほとんど無い。年平均降水量は 2,301mm と、県内平均値よりやや少なくその約半分が 5 月から 9 月に降る。年間日照時間は 2,500 時間と長く、西風が年平均 5m/秒と強い。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
白羽では 635 戸のうち、全壊 20 戸、半潰 69 戸、御前崎では 863 戸、全壊半壊はなかった。また白羽・神子神田で半径 1m の泥丘が無数に生じた。震度は白羽(中西)で 6~7、御前崎で 5~6、蒲原・新神子で 5 であった。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下に被害を与えた大地震。当地では白羽中西で大被害があったが、御前崎・白羽・地頭方その外近辺では潰家はなかった。震度は白羽中西で 6~7、御前崎・白羽では 5 であった。

災害事例 津波

- 1946 年 12 月 21 日（昭和 21 年）南海地震津波
御前崎で高さ約 2m の津波があった。
- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震津波
当地の沿岸地帯は被害はなかった。津波の高さは約 1.3~2m であった。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震津波
全県沿岸に大きな被害を与えた津波であり、当地でも御前崎で 5~5.5m、白羽で 6m 位の津波の高さがあったものとされている。

災害事例 台風

- 1966 年 9 月 25 日（昭和 41 年）台風 26 号
全県下特に中部で被害大であった。御前崎で最大瞬間風速 50.5m/s の強風を記録した。
- 1959 年 9 月 26 日（昭和 34 年）伊勢湾(15号)台風

県西部で被害が大きかった。26日の御前崎の最大瞬間風速は44.4m/sである。

災害事例 豪雨

- 1972年10月22日(昭和47年)
1時間雨量87.0mmの豪雨で、浸水家屋床上1戸、床下15戸、宅地欠壊1個所の被害があった。
- 1968年7月5日～6(昭和43)
6日1時から2時の間の1時間雨量は53.0mmで、5日夜半から6日朝にかけ、土砂崩れ6個所を生じ、また床下浸水14戸、田畑冠水150haに及んだ。

災害事例 竜巻

- 1962年8月26日(昭和37年)
上岬・下岬地内では午前8時25分ごろ、とつじょ突風が起こり、アッという間に家屋など26戸が全半壊する大きな被害を出した。県下各地に突風が発生したが、このうち2つが当地を襲った。約300mの間隔で竜巻がジャンプした形跡がある。